

令和7年第4回広野町議会定例会

一般経過報告

令和7年第4回広野町議会定例会が12月18日から19日までの会期で開催されました。一般質問を経て議案審議が行われ、すべての議案が原案どおり可決されました。会期初日には、小松和真新町長が所信表明と第3回定例会（9月開催）以降の町政経過報告を行いました。

9月13日、広野町環境美化推進協議会が主催する美化活動が、広野駅周辺で行われました。当日は、同協議会の根本会長をはじめ、JR職員OBや町職員など約80名が参加し、広野町の玄関口である駅前や駅構内の除草作業に取り組みました。

9月20日、行政区長会議を開催しました。令和7年度における広野町の重点事業の進捗状況、各行政区からの要望と質問への対応について説明を行いました。行政区長の皆様の見を施策に反映し取り組んでいきます。

9月30日、「広野町復興創生の日」記念式典を、衆議院議員 坂本竜太郎様、衆議院議員 齋藤裕喜様、参議院議員 星北斗様、復興庁福島復興局長、福島県相双地方振興局長、広野町議会議員並びに協議会議員、行政区長、町民の方など約80名参加の下、広野町公民館大会議室において挙行しました。式典において、「復興から創生へ…医療イノベーションが描く 新しい地域の姿」と題し、東京大学アイソトープ総合センター 和

総務課

田洋一郎 教授から基調講演をいただきました。

11月3日、生活環境の美化と保全、地域コミュニティ再生を目的とした行政区クリーアップ作戦を実施しました。多くの町民の皆様にご参加いただき、町内各地の環境美化に取り組みました。

11月18日公示、11月23日投票の日程で広野町長選挙が執行され、投票の結果、私が当選の栄を受け、町長の重責を担うこととなりました。町民の負託にこたえ、町民主体の町づくりを目標に掲げ、町民の福祉向上に資する事業を進めて参ります。

9月16日、広野町インターン地域交流活動の成果報告会

復興企画課

を、ひろの未来館で開催しました。町内に一か月間滞在し、地域の課題解決に取り組んだ大学生2名による活動成果が報告され、21名が参加しました。

9月20日、21日、第21回ふるさと回帰フェア2025が東京都の東京国際フォーラムで開催され、移住を検討する約3万3000名が来場しました。本町は移住相談窓口を出展し、町の魅力をPRするとともに、訪れた38名の移住相談に対応しました。

9月24日、谷公一自民党東日本大震災復興加速化本部長が来訪され、第3期復興・創生期間における課題等について意見交換を行いました。町と議会は谷本部長に対し、合同で要請書を手交し、復興財源の確保や福島イノベーション・コースト構想の推進、教育環境の充実などを求めました。

9月27日、広野スタイル2025を開催し、会場の二ツ沼総合公園にはFMX（フリースタイルモトクロス）の迫力あるショーを見るため約1,500名の来場者がありました。会場では、様々なスポーツイベントや体験型アトラクション、キッチンカーや

物販ブースが立ち並び、多くの家族連れで賑わいました。

10月11日、ふたばワールド2025 in かわうちが、川内村の田ノ入工業団地において伊藤忠彦復興大臣はじめ、国・県等、多くの来賓者を迎え盛大に開催されました。当日は雨天の中での開催となりましたが、地元団体の迫力ある芸能披露や歌手、お笑いタレントのステージ、ふたばの大鍋の振る舞いがあり、参加町村の地元産野菜や特産品の販売、PRブースが出店され、約3,000名の来場がありました。

10月12日、秋季広野町長杯パークゴルフ大会レッドカップが開催され、町内外から約150名の参加者の下、日頃のプレーの成果を発揮しようと熱戦が繰り広げられました。難コースにおいて、ホールインワンを複数記録する等盛り上がりしました。

10月18日、第28回ひろの童謡まつり音楽祭が、童謡夢大使 眞理ヨシ子様ほか、日本童謡協会所属の歌手の皆様、広野こども園の園児、広野小・

町長所信表明

“子どもたちに誇れる町を、
未来への約束”



私が考える町民の幸せとは、30年後も広野町が単独で存続することであり、町民の誰もが歴史と伝統を重んじ、豊かで誇り高い生活を送れることでもあります。将来にわたって、広野町が単独で行政運営を維持することは簡単な事ではありません。

私は、30年後、広野町が単独で存続するための公約として、三つの点に取り組みます。

一、広野火力発電所の存続堅持！町民の皆様の働く場を守る。

広野火力発電所1、2、3、4号機が廃止となり、5、6号機は石炭火発であり、世界的な潮流から存続が危うい状況にあります。燃料転換、発電効率のイノベーションを起こす事業の研究・実用化などF-REI（福島国際研究教育機構）を活用し、広野火力発電所を存続させ、地域の雇用を守る手段として、跡地利用も含め、電力事業者に対する技術的、経済的な支援をするため、国・県に対し積極的に要望活動を行います。

一、町内小・中・高校を地域トップ校へ！教育政策の充実を図る。

町立学校の魅力向上につながる少人数指導、習熟度別授業による基礎学力の向上を目指すと共に、探求、思考、挑戦を掲げる教育プログラムを推進するため、教育委員会を通じて教員の加配、組織改革に取り組み教育現場の充実を図ります。地域独自の魅力ある教育プログラムを実装することで、県立中学校と切磋琢磨し浜通り地域において、地域トップの教育環境を整備いたします。

一、企業誘致による地域活性化！特産品開発を町づくりにつなげる。

地域農業と連動する企業を誘致し、農家の所得向上・経営安定化に貢献し、後継者不足の解消に取り組めます。私は、財政規律を維持することも重要だと思っています。しかし、町の収入が増えないことには、負のスパイラルから逃れることはできません。町の収入を増やすために、企業誘致による産業振興を大きな公約の一つに掲げました。一流企業を誘致することも重要だとは思いますが、地域の農業と結びついて新しい産業を起こす企業を誘致し、基幹産業である農業を活性化させます。それにより農家の収入が安定し、農家を志す若者が増えることが期待できます。そのような好循環が生まれる広野町を目指します。

私は約34年の間、町職員として町政に携わり、現場で働きながら町の課題を肌で感じてきました。その経験と知見を最大限に生かし、町民の皆様一人ひとりの声に真摯に耳を傾け、現場の目線で、ある時は悩みながらアイデアを出し合っ、町民の皆様と一緒に広野町の未来を作り上げていきたいと考えています。閉塞感のある役場を改革し、風通しの良い、元気あふれる職場に生まれ変わらせ、町民の皆さんから信頼され、充実した仕事ができる環境を作っていきたいと考えています。そのためには、改革の先頭に立って職員を鼓舞し、元職員という強みを生かしながら、信頼関係を築くことで一人ひとりのやる気を引き出していきます。市町村合併の道を選ばず単独で歩む町として、隣接する市町村と共に、独自の文化や個性を守りながら発展をしていく町づくりに取り組んで行きます。

今は、第二期復興創生期間から第三期復興創生期間に移行するまさに正念場、依然として非常に厳しい町政運営が求められる中、多くの町民の皆様の期待に応えるべく、そして子どもたちの未来のために、現場目線貫き、全身全霊全力で新しい広野町の歴史を築く覚悟であります。

（町長所信表明より抜粋）

